

## 専門英語（4年）

責任者・コーディネーター	病理学講座(病態解析学分野) 入江太朗教授 口腔保健育成学講座(歯科矯正学分野) 間山寿代准教授				
担当講座(分野)	補綴・インプラント学講座(補綴・インプラント学分野)、口腔顎顔面再建学講座(口腔外科学分野)、口腔顎顔面再建学講座(歯科麻酔学分野)、口腔保健育成学講座(歯科矯正学分野)、口腔保健育成学講座(小児歯科学・障害者歯科学分野)、歯科保存学講座(う蝕治療学分野)、歯科保存学講座(歯周療法学分野)				
対象学年	4	区分・時間数		講義/演習	実習
期間	通期		前期	3.0時間	0.0時間
			後期	6.0時間	0.0時間

### 学修方針（講義概要等）

教養課程、2年次と3年次に履修した専門英語の理解度をさらに深めるため、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどのアクティブ・ラーニングを活用した繰り返し演習を実施する。本科目の修得により、歯科臨床の現場で使用される歯学の英語基本用語を再確認できる。5年次臨床実習を行うに足る十分な歯学専門英語の知識を確実に身につけることができる。

### 教育成果（アウトカム）

医学・医療のグローバル化、先進化にともない、歯科医学・医療についての情報を収集する場面、増加する外国人の歯科診療を行う場面など、様々な場面で、英語を用いたコミュニケーションを行うことが必要とされる。専門英語では、1) 医学の共通語としての医学（歯科）用語を学び、臨床実習のケースプレゼンテーションや歯科医師国家試験における“歯科医学、医療分野で必要とされる英語”に備えるとともに、2) 教養課程で学んだ英語をさらに発展させ、専門論文などを読む上に必要な読解力を習得することで、総合的なコミュニケーションスキルを高める。

（関連するディプロマポリシー：2、7）

### 事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、テキストを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。適宜、事前学修内容の発表時間を設ける場合がある。

（事前学修：最低30分を要する 事後学修：最低30分を要する）

## 講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	6/12 (月)	1	FRコース 担当教員	歯学の基本用語 1  臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. 補綴領域でよく使われる基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. 補綴領域で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [A-7-2)-①] 事前学習：FR領域の基本的な英語について、講義までに資料にある問題を解答する。
講義	7/18 (火)	4	SmADコース 担当教員	歯学の基本用語 2  臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. SmADのコースを通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 SmADのコースを通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [A-7-2)-①]
講義	9/19 (火)	4	ASTコース 担当教員	歯学の基本用語 3  臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. 口腔外科領域でよく使われる基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. 口腔外科領域で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [A-7-2)-①] 事前学習：口腔外科領域の基本的な英語について、講義までに資料にある問題を解答しておく。
講義	11/10 (金)	3	TxChildコース 担当教員	歯学の基本用語 4  臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. 小児・障害者・矯正歯科領域に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. 小児・障害者・矯正歯科領域で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [A-7-2)-①] 事前学習：講義までにテキストにある問題を解答しておく。専門用語について調べて講義に臨むこと。

講義	12/12 (火)	1	ADコース 担当教員	<b>歯学の基本用語 5</b>  臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. ADのコースを通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 ADのコースを通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 <b>[A-7-2)-①]</b>
講義	12/13 (水)	4	入江太郎教授 (病態解析分野)  間山寿代准教授 (歯科矯正学分野)	<b>歯学の基本用語／演習 (到達度評価試験)</b>	1. 客観的な評価（到達度評価試験）を受け、達成度と理解度を知る。

## 教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	Dental Terminology 3rd ed	Charline M Dofka	Delmar Cengage Learning	2013年
推	Medical Terminology A short course 9th ed	Davi-Ellen Chabner	Saunders	2023年

## 成績評価方法・基準・配点割合等

各コースの臨床系講座（分野）教員によるグループ学習、または対話形式の授業でおこない、到達度評価試験により達成度と理解度を評価する。

## 特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用等）

・3年までに学習した英語・英単語を基礎に、将来必要とされる英語を用いたコミュニケーション力を養うため、ディスカッション・プレゼンテーション方式の講義を行う。そのためには3年次のテキストを必ず復習して講義に臨む必要がある。その上で臨床に用いられる各コースの専門英語を習得する。講義の途中あるいは最後にクリッカー、WebClassを活用して学生の理解度を逐次確認する場合がある。  
・到達度評価試験により達成度と理解度を評価する。各々個人で、英語での理解度、コミュニケーション力の向上に努めること。

## 授業に使用する機械・器具と使用目的 …特記すべき器械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的